

街並み形成に資する店舗外観の特徴に関する研究

—自由が丘のカフェを対象として—

Research on the characteristics of store appearance that contributes to the formation of the cityscape

—For cafes in Jiyugaoka—

○山田はづき¹, 品田康太², 阿部貴弘³*Hazuki Yamada¹, Kota Shinada², Takahiro Abe³

Abstract: Jiyugaoka has been working on the formation of its own cityscape, such as establishing cityscape rules based on district plans and building agreements for each area. In this study, we will clarify the relationship between the current exterior design of cafes and the formation of cityscapes, targeting many cafes in Jiyugaoka.

1. はじめに

東京都目黒区に位置する「自由が丘」は、「自由が丘サンセットエリア」「自由が丘南口地区」「自由通り沿道八雲地区」「自由が丘睦坂沿道地区」^[1]の4つのエリアで地区計画や建築協定による街並みルールを定めるなど、独自の街並み形成に取り組んできた。

さらに、目黒区はこうしたルールの定めがないエリアについても、街づくりや景観形成に参画・協力をすすめるために、商店街と住宅地の関係団体などの協力を得ながら検討を重ねて自由が丘地区街並み形成指針を作成した。自由が丘地区街並み形成指針は、2009年度から運用され、地区全体での街並みづくりの基本的考え方を示す「共通指針」と、ゾーンごとの配慮事項を示した住居形用途地域の「住宅ゾーン指針」と商業系用途地域の「商業ゾーン指針」^[2]からなる。共通指針では、敷地の境界部や緑の量、広告物等について定めることで、自由が丘地区の住民や商業者らが街づくりや景観形成に参画、協力していこうという意思と願いを表明している。商業ゾーンでは、洗練された店舗周りや居心地のよいヒューマンスケールを継承しつつ、歩いて楽しい街づくりを目標にする。街並み形成においては、店舗の営みとともに店舗と街並みの形成を一体として捉え、維持向上していくことが重要とされている。^[2]街角のたまりになるしつらえや看板の一体化、人の動きがうかがえる低層部、隣接空間、連なりを持った街並み等についての取り組みが挙げられている。

店舗外観に関する既存研究には、店舗の入りやすさ^{[3][4]}や都市景観におけるまとまり^[5]に関する研究等成果があるが、店舗外観と街並み形成の関係性に関する研究は十分とはいえない。そこで本研究では、自由が丘に存在する店の中でも特に数多く存在する「カフェ」を対象とし、街並み形成の維持向上に資するこ

とを念頭に、店舗外観の特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象

本研究では自由が丘駅周辺の商業地域、近隣商業地域の中で、各店舗のウェブサイト「カフェ」と記載のある店をカフェと定義し、44軒のカフェを対象とした。

3. 研究方法

研究方法は Figure 1 の通りである。

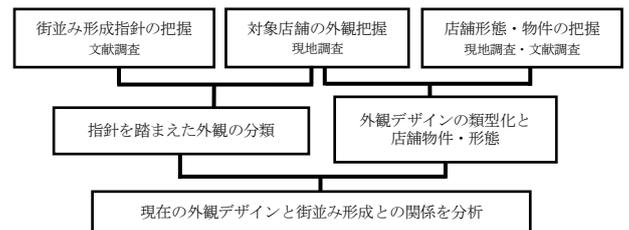


Figure 1. Research flow

4. 研究結果及び考察

4-1. 指針を踏まえた外観の分類

対象店舗の自由が丘地区街並み形成指針に沿った外観デザインを把握するために、街並み形成指針の商業ゾーンに挙げられている取り組み例から、Table 1 に示す5つの分類項目を抽出した。それらの分類項目に対し、対象店舗の配慮の有無とその配慮の方法に着目し、分類した (Table 2)。また分類項目1では、取り組みの対象が角地の店舗であるため、研究対象の店舗の内16/44軒 (36%) から分類した。

自由が丘のカフェでは約半数の店舗が自由が丘地区街並み形成指針に基づいている。また、分類番号1の街角を印象づけたまりになるしつらえを行なっている店舗は3/16軒 (19%) と少なく、分類番号5の通りに面する軒線・壁面線が連なりをもった店舗は30/44軒 (68%) と多いことから、まち全体での一体感はあるものの、角地の利用は完全には出来ていないことがわ

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・院 (前)・まち 3: 日大理工・教員・まち

かる。分類番号2で看板を一体化させている店舗でも、店名を建物本体に直接デザインしている店舗が20/23軒(87%)と多いことから、すっきりとした街並みを形成している店舗が多いことがわかる。分類番号3の店舗内の様子が伺える低層部である店舗数は、店舗内が見えやすい程多く店舗内の様子が見えない店舗でも看板やショーウィンドウで店の情報を強調している店舗が多くある。

Table 1. Items of cityscape formation guidelines

分類番号	分類項目
1	街角を印象づけ、たまりになるしつらえを行っているか(角地の店舗のみ)
2	看板を一体化し、すっきりとした印象を与えているか
3	店舗内の様子や人の動きが伺える低層部になっているか
4	通りに開いた店舗先や隣接空間の活用により、賑わいや繋がりを創出しているか
5	通りに面する軒線・壁面線が連なりをもった一体感のある街並みか

Table 2. Classification results of target stores

分類番号	配慮の有無の分類	軒数	配慮の分類	軒数
1	有	3/16(19%)	角にテラス席	1/3(33%)
	無	13/16(81%)	角に沿った開口部	2/3(67%)
2	有	23/44(52%)	建物に直接記入	20/23(87%)
			窓面内側	2/23(9%)
	無	21/44(48%)	テナントで集約	1/23(4%)
3	有	23/44(52%)	全面窓ガラス	12/23(52%)
			一部窓ガラス	10/23(43%)
	無	21/44(48%)	開口部	1/23(4%)
			店名、メニュー強調	13/21(62%)
			カウンター	4/21(19%)
4	有	14/44(32%)	アプローチ	4/21(19%)
			椅子	4/14(29%)
	無	30/44(68%)	テラス席	3/14(21%)
			テラス席+窓ガラス	6/14(43%)
5	有	30/44(68%)	軒線	2/30(7%)
	無	14/44(32%)	壁面線	28/30(93%)

4-2. 店舗外観の類型化と店舗形態・物件

店舗外観の調査結果を基に、店舗外観の特徴を把握するため、類型化を行った (Table 3)。

情報型は、13/44 軒 (30%) あり、のれんやショーウィンドウ等を使用して店名の強調やメニューの詳細を伝えるなど、その店の情報を強調している。

隣接空間活用型は、11/44 軒 (25%) あり、テラス席と店舗内が開口部等により繋がっているような隣接空間を生み出している。

内部強調型は、12/44 軒 (27%) あり、テラス席は無いものの、窓ガラスや開口部が大きく、店舗内の奥まで人の動きや様子がよく伺える。

カウンター型は、4/44 軒 (9%) あり、テイクアウトを実施している店舗で、カウンターが設置してある。

アプローチ配慮型は、4/44 軒 (9%) あり、2階以上にある店舗が多く、店舗内に入るまでのアプローチを階段等により1階からでも目立つような工夫がなされている。

自由が丘のカフェは、主に隣接する店舗と壁面線や

軒線が連なっており、景観に一体感を与えている。また、壁面線から引きテラス席を設けている店舗では、自由が丘を利用する人のたまり場となるような工夫がなされている。さらに、看板は建物本体と一体にデザインされているものやビルのテナント用の看板を集約して設置しているもの等、過剰にせず、まちの表情をつくっているものも多く見られた。

このように自由が丘のカフェはその前を歩く人の歩きやすさ、居心地の良い街並みを形成する為の工夫がいくつも存在する。

Table 3. Type results of target stores

類型化	類型名	情報型	隣接空間活用型	内部強調型	カウンター型	アプローチ配慮型
	店舗写真					
軒数		13/44	11/44	12/44	4/44	4/44
店舗形態	自営	4/13	2/11	2/12	3/4	1/4
	チェーン	9/13	9/11	10/12	1/4	3/4
店舗物件	テナント(ビル)	9/13	8/11	4/12	3/4	3/4
	テナント(マンション)	0/13	2/11	1/12	0/4	0/4
	テナント(商業施設)	1/13	0/11	3/12	0/4	0/4
	駅構内・高架下	0/13	0/11	2/12	0/4	0/4
	路面店	3/13	1/11	2/12	1/4	0/4
	古民家	0/13	0/11	0/12	0/4	1/4
外観工夫	ショーウィンドウ、のれん、オーニング、看板	屋外テラス席、植栽、開口部	窓ガラス、開口部	カウンター、開口部	階段、植栽、石	

5. まとめ

本研究では、東京都墨田区の「自由が丘」のカフェ店舗を対象とし、店舗外観の特徴を明らかにした。

今後は自由が丘の各店舗の歴史や設計者及び大工に関する調査を掘り下げ、分析をより精緻なものとする。

6. 参考文献

- [1]目黒区一地区計画(最終閲覧日2021年9月21日)
(https://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/sumai/katsudo/chiku_kenchiku/chikukeikaku/index.html)
- [2]自由が丘地区街並み形成指針(最終閲覧日2021年9月21日)(http://www.jiyugaoka-spirit.com/Street_formation/index.html)
- [3]小崎美希:「商業店舗の外観評価と外観構成要素に関する研究」,日本建築学会環境系論文集,82巻,第738号,pp.695-704,2017
- [4]山本杏子・伊丹弘美・小島隆矢:「想起法による店舗等の入りづらさに関する調査分析」,日本建築学会環境系論文集,81巻,第719号,pp.19-27,2016
- [5]木多道宏・舟橋國男:「都市景観における視覚的「まとまり」に関する研究」,都市計画論文集,33巻,pp.643-648